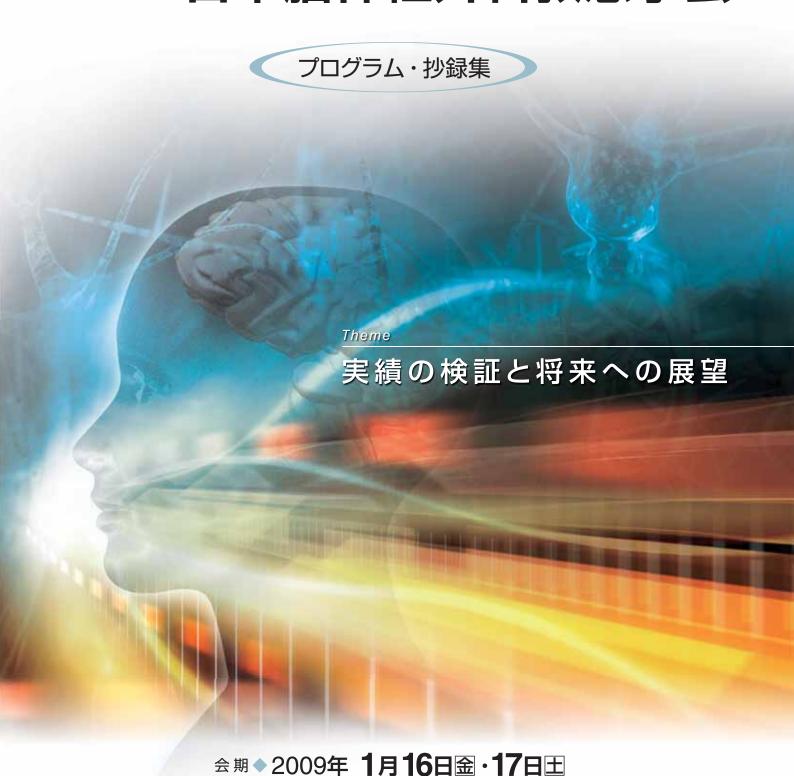
The 14th Annual Meeting of the Japan Society of Neurosurgical Emergency

第14回日本脳神経外科救急学会



会場◆ラフレさいたま

会長◆島 克司 防衛医科大学校脳神経外科

第14回 日本脳神経外科救急学会

The 14th Annual Meeting of the Japan Society of Neurosurgical Emergency

―プログラム・抄録集―

会 長■島 克司 防衛医科大学校 脳神経外科

会 期 ■ 2009年 1月 16日 金・17日 田

会場■ラフレさいたま

URL ■http://jsne2009.umin.ne.jp/

第14回学術集会事務局

会期前■防衛医科大学校脳神経外科

〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-2

電話:04-2995-1656

E-mail: neuro@ndmc.ac.jp

会期中■ラフレさいたま

〒 330-0081 埼玉県さいたま市中央区新都心 3-2

代表電話 048-601-1111(24 時間対応)

歴代会長ならびに開催地

第1回関西脳神経外科救急研究会 会長:長澤 史朗 大阪医科大学脳神経外科

会期:平成8年1月27日出 会場:三和化学研究所 大阪メディカルホール(大阪)

第2回関西脳神経外科救急研究会 会長:織田 祥史 神戸中央市民病院脳神経外科

会期:平成9年1月25日出 会場:三和化学研究所 大阪メディカルホール(大阪)

第3回脳神経外科救急研究会 会長:山木 垂水 京都府立医科大学脳神経外科

会期: 平成10年1月31日出 会場: 三和化学研究所 大阪メディカルホール(大阪)

第4回脳神経外科救急研究会 会長:藤田 勝三 西神戸医療センター脳神経外科

会期: 平成11年1月23日(土) 会場: 三和化学研究所 大阪メディカルホール (大阪)

第5回日本脳神経外科救急研究会 会長:有賀 徹 昭和大学医学部救急医学

会期:平成12年1月22日出 会場:三井アーバンホテル大阪(大阪)

第6回日本脳神経外科救急研究会 会長:重森 稔 久留米大学医学部脳神経外科

会期: 平成13年1月20日(土) 会場: 千里ライフサイエンスセンター(大阪)

第7回日本脳神経外科救急学会 会長:片山 容一 日本大学医学部脳神経外科

会期: 平成 14年1月 18日 金~ 19日 出 会場: 都市センターホテル(東京)

第8回日本脳神経外科救急学会 会長:河本 圭司 関西医科大学脳神経外科

会期: 平成15年1月17日 金~18日 出 会場: 千里 ライフサイエンスセンター(大阪)

第9回日本脳神経外科救急学会 会長:栗栖 薫 広島大学脳神経外科

会期: 平成16年1月23日 金〜24日 出 会場: ホテルグランヴィア広島(広島)

第10回日本脳神経外科救急学会 会長:佐野 公俊 藤田保健衛生大学脳神経外科

会期:平成17年1月21日(金)~22日(土) 名誉会長:神野 哲夫 藤田保健衛生大学病院

会場:東京第一ホテル錦(名古屋)

第11回日本脳神経外科救急学会 会長:黒岩 敏彦 大阪医科大学脳神経外科

会期:平成18年1月20日金~21日仕 会場:大阪国際交流センター(大阪)

第12回日本脳神経外科救急学会 会長:堤 晴彦 埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター

会期:平成19年1月19日金~20日出 会場:学士会館(東京)

第13回日本脳神経外科救急学会 会長:大野喜久郎 東京医科歯科大学脳神経機能外科学分野

会期: 平成20年1月18日) 19日出 会場: 品川プリンスホテル 新館(東京)

第14回日本脳神経外科救急学会 会長:島 克司 防衛医科大学校脳神経外科

会期: 平成21年1月16日(金)~17日(土) 会場: ラフレさいたま(さいたま市)

会期予定 -

第15回日本脳神経外科救急学会 会長:小川 武希 東京慈恵会医科大学救急医学講座教授

会期:平成22年2月26日(金)~27日(土) 会場:東京慈恵会医科大学大学1号館3階講堂ほか

ご挨拶

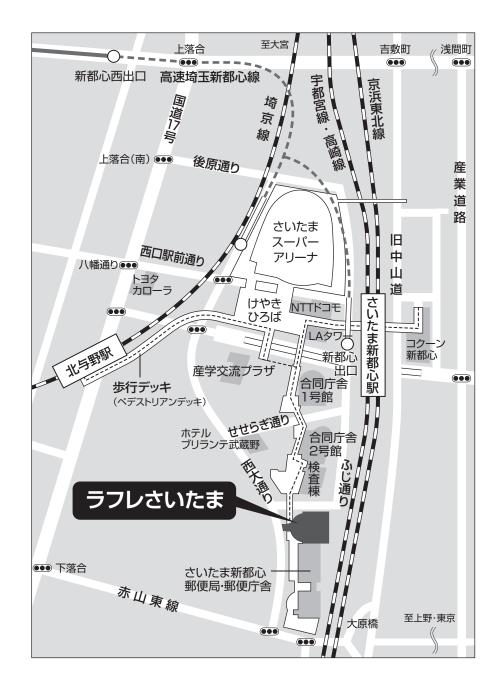
第 14 回日本脳神経外科救急学会会 長島 克司 防衛医科大学校脳神経外科学講座 教授

このたびは第14回日本脳神経外科救急学会を私どもの教室で主催させていただきますことを、教室員ともども大変光栄に存じております。学会は、2009年1月16日 (金) および17日 (土) の2日間、さいたま市のさいたま新都心内にあるラフレさいたまにおいて開催させていただきます。

周知のように2006年の厚生労働省の第5次医療法改正に基づいて2008年4月より新医療計画がスタートしました。主要目的は、地域における医療機能の分化と連携で、脳卒中を含む4疾病と救急、災害を含む5事業について各医療圏の医療提供体制を整備することで、疾病・事業を各医療圏域で担う医療機関の実名や医療体制が公表されることになりました。そして、脳卒中診療に必要な急性期病院に求められる事項として、(1)脳梗塞に対して発症3時間以内に血栓溶解療法が可能である、(2)脳出血やくも膜下出血に対して外科的治療が可能である、(3)発症当日からリハビリテーションが可能である、の3条件が定められました。また、2008年4月の診療報酬改定では、脳梗塞の急性期にt-PAを使用した場合の加算がされるようにもなりました。今回のこうした行政の対応に対して、これまで脳卒中診療の現場で頑張ってきた多くの脳神経外科医は、ようやく報われた心境になったのではないでしょうか。そもそもわが国の救急医療体制は、1970年代のモータリゼーションとともに激増する頭部外傷患者に対して整備されてきたものです。こうして考えると、2008年は、日本脳神経外科救急学会員にとって、エポックメーキングな年になるかもしれません。節目の年となる今回のテーマは、「実績の検証と将来への展望」とさせて頂きました。

特別講演は、国際医療福祉大学教授の和田 勝先生による「医療制度改革と救急医療」、ならびに台北医科大学副校長で台湾神経外傷学会会長の Chiu 教授による「Epidemiologic Transition of Traumatic Brain Injury」を予定しています。第12回の学会以来継続されている ISLS (Immediate Stroke Life Support) コースに加えて、学会として刊行した脳神経外科救急ハンドブックを教材に脳外科救急の初期診療のコース PNLS (Primary Neurosurgical Life Support) コースも開催する予定です。シンポジウムでは、脳卒中関連では、血栓溶解療法、Stroke Care Unit および血管内手術の有用性などのテーマを取り上げて、脳神経外科救急医療の現状と今後の役割を討議していただく予定です。また、一般演題では、救急医療のpitfall とリスクマネージメント、軽症・中等症患者の診療の現状と今後なども討論のテーマに取り上げますので、是非とも活発なご討論をお願い申し上げます。

多数の皆様のご来駕を、教室員一同心よりお待ち申し上げております。 2008年師走



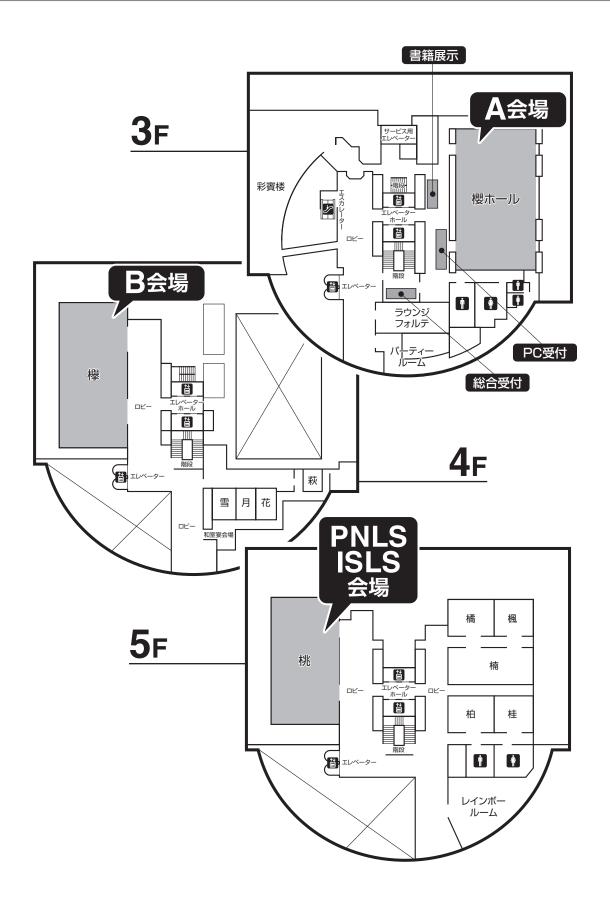
[アクセス]

電車(JR)をご利用の場合

- ●京浜東北線 ●宇都宮線 —
- 「さいたま新都心」駅下車 徒歩7分
- ●高崎線 ———
- ●東北新幹線、●上越新幹線をご利用の方は、「大宮駅」で お乗換え下さい。

車をご利用の場合

●高速道「さいたま新都心線」……新都心出口から400m



ご案内

Ⅰ 学会参加の皆様へ

1. 参加受付

- ① 参加受付は、1月16日金、17日出とも午前8時15分より総合受付(3階A会場(櫻)前)にて 開始します。
- ②参加者カードに氏名、所属、専門医番号をご記入の上、参加費15,000円(医師) 3,000円 (看護師、救急救命士)を添えて受付にお渡しください。会場内では必ずネームカードを着用して下さい。着用の無い場合は、入場をお断りします。
- ③ 日本脳神経外科学会専門医の方は専門医クレジットが5点加算されますので、参加者カードの専門医番号と氏名をご記入の上、箱に投函して下さい。
- ④ 日本救急医学会専門医等の方は更新時にネームカード(コピー可)を業績目録に添付することにより5点が加算されます。
- ⑤ プログラム・抄録集は当日ご持参ください。別途ご希望の方は、1冊2,000円で販売致します。
- ⑥ 学会会員以外の方は参加できませんので、事前または学会当日新入会受付にて所定の手続き をお取りください。

日本脳神経外科救急学会事務局:

関西医科大学脳神経外科内

〒570-8507 守口市文園町10-15

TEL 06-6993-9479 / FAX 06-6991-6207

E-mail: jsne@takii.kmu.ac.jp

2. 各委員会の開催予定は以下の通りです。

1月15日休 ラフレさいたま

編集委員会·幹事会	[5階	柏]	$15:00 \sim 16:00$
常任理事会および役員推薦委員会	[5階	桂]	$16:00 \sim 17:00$
理事会	[5階	楠]	$17:00 \sim 18:00$
評議員会	[5階	楠]	$18:00 \sim 18:30$

3. ランチョンセミナー

1月16日(金)・17日(土)の両日、B会場(欅)にて行います。

4. クローク

ラフレさいたま 1階にご用意しいております。

5. 参加費

医 師 15,000 円 看護師、救急救命士 3,000 円

Ⅱ 演者の皆様へ

1. 発表時間は

シンポジウム……発表8分/個別討論2分/総合討論20~30分

一般口演 ……発表6分/個別討論2分

を厳守いただきますようお願い申し上げます。

- 2. PC 受付は A 会場前 (3階櫻) にて行います。発表の 30 分前までに受付をお済ませ下さい。
- 3. 各会場ともスクリーンは1面、液晶プロジェクター1台です。

4. PC 発表

- ※ ご発表に用意する PC は Windows: Power Point 2000, 2003です。
- ※ データを持参される方はメデイア (CD-R, USB メモリーステイック) をご持参ください。
- ※ Macintosh、動画 (Windows, Macintosh ともに)をご使用される方はご自身の PC をご持参ください。ご持参される PC に D-sub15 ピンの出力端子が付いていることをご確認ください。また電源アダプターをお忘れなく、ご用意ください。

Ⅲ 座長の皆様へ

すべてのセッションとも時間のゆとりがございませんので、時間厳守でお願い申し上げます。 会場のアナウンスはありませんので、開始時間になりましたらセッションをお始めください。

Ⅳ 討論者の皆様へ

円滑な運営のため、質問やコメントされる方は、予めマイクの前に立ち座長の指示に従って下さい。 尚、発表者に対する儀礼的な賛辞を割愛くださいますようお願い申し上げます。

※ スライドの撮影、録音はすべて禁止致します。

Ⅴ 問い合わせ・連絡先

学会前:防衛医科大学校脳神経外科

埼玉県所 沢市並木 3-2 TEL:04-2995-1656 neuro@ndmc.ac.jp

会期中:ラフレさいたま 代表電話048-601-1111(24時間対応)

代表電話で交換台がでますので、第14回日本脳神経外科救急学会事務局を指示してください。

第14回日本脳神経外科救急学会学術集会

PNLS (Primary Neurosurgical Life Support 脳神経外科救急基礎蘇生) コース

脳神経外科医はわが国の救急医療で大きな役割を果たしています。これは、脳神経外科の扱う、頭部外傷、脳卒中などが24時間365日の緊急対応を要するからで歴史的にも重要な役割を担ってきました。

このたび、第14回日本脳神経外科救急学会学術集会に合わせ、脳神経外科救急の要素を盛り 込んだ基礎的なコース(蘇生コース)を開催するはこびとなりました。

内容はBLSの復習・再確認、気道確保と除細動、脳ヘルニア、脳神経外科救急症例検討の4時間コースで、脳神経外科の専門医を目指す人、および将来的には脳神経外科の看護師等のスタッフにも受講をすすめる入門コースとなっています。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げております。

記

12:30~ 受付開始

13:00~17:00 PNLS コース

会場:ラフレさいたま

受講対象者:脳神経外科の専門医を目指す医師

コース内容は上記を対象に設計されていますが、脳神経外科の看護師等のスタッフにも受講をすすめる入門コースとなっています。受講者との公平性の観点から、 見学の申込は原則としてお受けしかねますのでご了承ください。

募集人数:32名(予定)

受 講 費 用:¥10,000(当日持参)→¥8,000(振込)

テキスト:メディカ出版より発行予定

募集期間: $\sim 12月20日(定員を超えた場合、早期に募集を終了することがあります。)$

以上

奥寺 敬(富山大学大学院危機管理医学)

企画:日本臨床シミュレーション機構 運営: NPO 法人北陸救急災害医療機構

第14回日本脳神経外科救急学会学術集会

ISLS(脳卒中初期診療)コース

ISLS コースは、脳卒中に対する専門医による治療までの橋渡しである "初期診療" に主眼をおき、主として脳卒中診療を専門としない医師や、救急外来の看護師などを対象にして開発された、シミュレーション研修です。ISLS コースの詳細については、ISLS の WEB サイトをご参照ください。

このたび、第14回日本脳神経外科救急学会学術集会に合わせ、ISLS コースを開催するはこびとなりました。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げております。

記

日 時: 平成20(2008)年1月17日

■

8:30~ 受付開始

9:00~13:00 ISLS コース

会場: ラフレさいたま

受講対象者: 医師(脳卒中非専門医、研修医)、または脳卒中診療に特に興味がありハイレベル な観察スキルを身につけたい看護師・救急隊員など

コース内容は上記を対象に設計されていますが、脳卒中診療の教育に携わっておられる、脳神経外科の先生方のご参加を歓迎いたします。コース内での各種実習に際して研修医や看護師を優先させていただくことがあります。受講者との公平性の観点から、見学の申込は原則としてお受けしかねますのでご了承ください。

募集人数:32名(予定)

受 講 費 用:¥10,000(当日持参)→¥8,000(振込)

テキスト: ISLS コースガイドブック (へるす出版)

(事前にご準備ください。上記費用には含まれません)

募集期間: ~ 12 月20日(定員を超えた場合、早期に募集を終了することがあります。)

以上

奥寺 敬(富山大学大学院危機管理医学)

企画:日本臨床シミュレーション機構 運営:NPO法人北陸救急災害医療機構

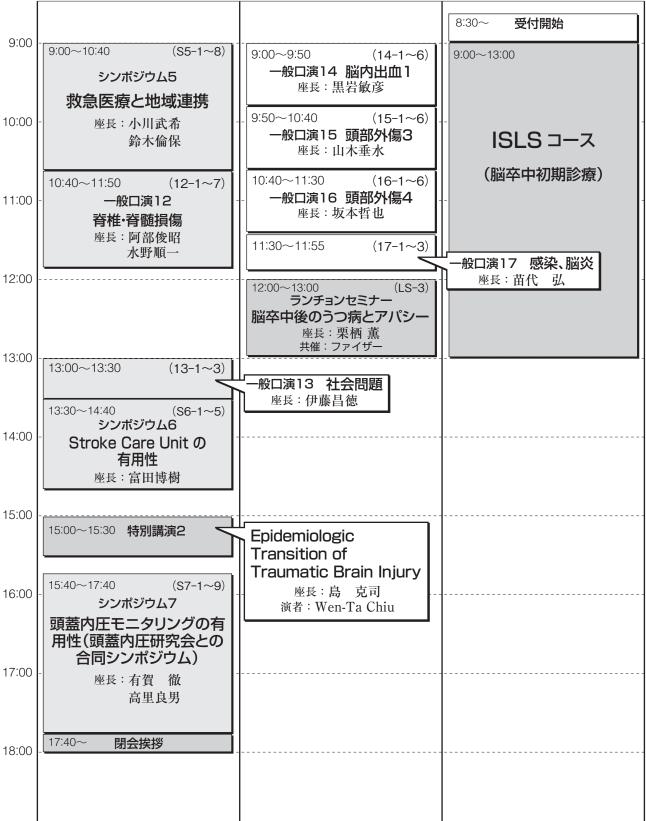
第**1**日目

1月16日金

	▲会場 (3F 櫻ホール)	B 会場(4F 欅)	セミナー会場(5階株)
9:00	8:55~9:00 開会挨拶 会長: 島 克司 9:00~10:00 (S1-1~4) シンポジウム1 災害医療における脳神経外科救急 座長: 奥地一夫 豊田 泉 10:00~11:50 (S2-1~8) シンポジウム2 脳梗塞の急性期治療 座長: 新井 一 永田 泉	9:00~9:32 (O2-1~4) 一般口演O2 くも膜出血1 座長:上山博康 9:32~10:05 (O3-1~4) 一般口演O3 くも膜出血2 座長:佐藤 章 10:05~10:40 (O4-1~4) 一般口演O4 くも膜出血3 座長:加藤庸子 10:40~11:40 (O5-1~6) 一般口演O5 くも膜出血4 座長:平山晃康	
12:00	1 重症くも膜下出血におけるICP モニタリングの有用性	12:00~13:00 (LS-1·2)	
13:00	2 頭部外傷に伴う凝固線溶系障害 からみた穿頭術の有効性 座長:大野喜久郎	共催:ジョンソン・エンド・ジョンソン	12:30~ 受付開始
14:00	13:05~13:30 総会 13:30~14:30 特別講演1 医療制度改革と救急医療 座長:清水庸夫 演者:和田 勝		PNLS コース (Primary Neurosurgical Life Support 脳神経外科
15:00	14:30~16:10 (S3-1~8) シンポジウム3 - くも膜下出血の急性期治療	14:30~15:10	救急基礎蘇生)
16:00	座長:塩川芳昭 坂井信幸 - 16:10~17:30 (S4-1~6) シンポジウム4	座長:原岡 襄 - 15:50~16:30 (08-1~5) - 般口演08 脳梗塞 座長:武田利兵衛 - 16:30~16:55 (09-1~3)	-
17:00	頭部外傷の急性期治療 _{座長} :重森 稔 小野純一	- 16:55~17:30 一般口演10 ドクターヘリ、ドクターカー 座長:吉井與志彦	一般口演09 看護 座長:松井英俊
18:00	17:30~18:05	17:30~18:10 (11-1~5) -般口演11 教育関連 - 座長:鈴木伸行	
19:00			

学会日程表

第2日目 1月17日田 セミナー会場(5階桃) **▲**会場 (3F 櫻ホール) B会場(4F 欅) 8:30~ 受付開始 9:00 9:00~10:40 (S5-1~8) 9:00~9:50 9:00~13:00 $(14-1\sim6)$ 一般口演14 脳内出血1 シンポジウム5 座長: 黒岩敏彦 救急医療と地域連携 9:50~10:40 $(15-1\sim6)$ 10:00 座長:小川武希 一般口演15 頭部外傷3 ISLS コース 鈴木倫保 座長: 山木垂水 (脳卒中初期診療) 10:40~11:30 $(16-1\sim6)$ 10:40~11:50 $(12-1\sim7)$ 一般口演16 頭部外傷4 11:00 一般口演12 座長: 坂本哲也 脊椎·脊髄損傷 座長:阿部俊昭 11:30~11:55 $(17-1\sim3)$ 水野順一 般口演17 感染、脳炎 12:00 座長:苗代 弘 12:00~13:00 (LS-3) ランチョンセミナー 脳卒中後のうつ病とアパシー 座長: 栗栖 薫 共催:ファイザー 13:00 13:00~13:30 (13-1~3) -般口演13 社会問題 座長:伊藤昌徳 13:30~14:40 (S6-1~5) シンポジウム6 14:00 Stroke Care Unit の 有用性 座長:富田博樹 15:00 15:00~15:30 特別講演2 **Epidemiologic** Transition of Traumatic Brain Injury 15:40~17:40 (S7-1~9) 座長:島 克司 16:00 シンポジウムフ 演者: Wen-Ta Chiu 頭蓋内圧モニタリングの有 用性(頭蓋内圧研究会との



19:00

プログラム

第1日目 平成21年1月16日 圖

プログラム

第1日目 1月16日 A 会場(3F 櫻ホール)

開会挨拶 8:55~9:00 会長:島 克司 防衛医科大学校 脳神経外科

シンポジウム 1 9:00~10:00

災害医療における脳神経外科救急 座長: 奥地 一夫 奈良県立医科大学救急医学

豊田 泉 岐阜大学医学部付属病院 高次救命治療センター

\$1-1大地震における脳神経外科医のあり方柳川 洋一 防衛医科大学校病院 救急部

S1-2 脳神経外科医が災害時にできること、災害に対して準備すること 山下 晴央 兵庫県災害医療センター / 神戸赤十字病院 脳神経外科

\$1-3 自衛隊と災害・救急医療 齋藤 大蔵 防衛医科大学校防衛医学研究センター外傷研究部門

シンポジウム2 10:00~11:50

脳梗塞の急性期治療

座長:新井 一 順天堂大学 医学部 脳神経外科 永田 泉 長崎大学 医学部 脳神経外科

- **§2-1** 急性期脳梗塞に対する rt-PA 静注療法の背景と治療成績 上山 憲司 中村記念病院 脳神経外科 脳卒中センター 臨床研究部
- **S2-2** 内頚動脈閉塞症に対する急性期血行再建術の可能性 瀧澤 克己 旭川
- **§2-3** 当施設の急性期脳梗塞治療: rtPA 静注・UK 局所動注・急性期バイパス 一ツ松 勤 新古賀病院 脳卒中脳神経センター脳神経外科
- \$2-4 心原性脳塞栓による内頚動脈閉塞症に対する rt-PA 静注療法 一血管内治療、軽度低体温療法を併用して一 入江 恵子 藤田保健衛生大学 脳神経外科
- **S2-5** rt-PA 静注療法 107 例の検討 ー「慎重投与」症例の対応についてー 大川 英徳 自衛隊中央病院 脳神経外科
- \$2-6 75歳以上の高齢者の rt-PA 静注療法の治療成績 塚田 利幸 公立能登総合病院 脳神経外科
- **S2-7** 広範囲脳梗塞に対する内外減圧術の治療成績と今後の課題 高田 英和 中村記念病院 脳神経外科 脳卒中センター
- **\$2-8** 急性期脳梗塞に対する治療戦略 〜血管内治療と tPA 静注療法〜 乙宗佳奈子 神戸市立医療センター中央市民病院 脳卒中センター

総 会 13:05~13:30

座長:清水 庸夫 医療法人啓清会 関東脳神経外科病院

医療制度改革と救急医療

演者:和田 勝 国際医療福祉大学教授

シンポジウム3 14:30~16:10

くも膜下出血の急性期治療 座長:塩川 芳昭 杏林大学 脳神経外科

坂井 信幸 神戸市立中央市民病院 脳神経外科

- **S3-1** 当教室におけるクモ膜下出血の急性期治療とレビュー加藤 庸子 藤田保健衛生大学 医学部 脳神経外科
- S3-2 杏林大学におけるくも膜下出血の急性期治療システムと治療予後の変遷 栗田 浩樹 杏林大学 医学部 脳神経外科・脳卒中センター
- **S3-3** くも膜下出血急性期における栄養管理と予後因子 山本 拓史 順天堂大学 医学部附属 静岡病院 脳神経外科
- **S3-4** くも膜下出血後の循環動態の解析 佐藤 洋平 東京医科歯科大学 医学部 脳神経外科
- **S3-5** 重症クモ膜下出血に対する治療戦略の変遷: 血管内治療の Impact 嶋村 則人 弘前大学大学院 医学研究科 脳神経外科
- **S3-6** 急性期破裂脳動脈瘤の血管内治療ークリッピング術との比較ー 園部 眞 独立行政法人国立病院機構水戸医療センター 脳神経外科
- 急性期破裂脳動脈瘤によるくも膜出血に対する治療 一当施設における clipping と coiling の治療選択ー 伊藤 圭介 藤田保健衛生大学 医学部 脳神経外科
- **S3-8** 破裂脳動脈瘤に対する急性期塞栓術の検討 橋本 孝朗 東京医科大学

シンポジウム4 16:10~17:30

頭部外傷の急性期治療 座長: 重森 稔 久留米大学 医学部 脳神経外科

小野 純一 千葉県循環器病センター 脳神経外科

- **S4-1** 急性硬膜下血腫に対する治療の pitfall ー自験 376 例の検討からー 梅澤 邦彦 京都第一赤十字病院 脳神経外科
- **S4-2** 両側の対光反射が消失した急性硬膜下血腫に対する緊急穿頭術の試み 柳川 洋一 防衛医科大学校病院 救急部
- S4-3 急性硬膜下血腫に対する穿頭術の減圧効果末廣 栄一 山□大学 医学部 脳神経外科
- **S4-4** 救急外来での緊急穿頭術 ~導入と運営~ 竹上 徹郎 京都第一赤十字病院 救急部 (脳神経外科)

プログラム

第2日目 平成21年1月17日田

プログラム

第2日目 1月17日出 A会場(3F櫻ホール)

シンポジウム5 9:00~10:40

救急医療と地域連携

座長:小川 武希 東京慈恵会医科大学 救急医学講座

鈴木 倫保 山口大学大学院 医学系研究科 脳神経外科学

S5-1 地域完結型脳卒中診療を目指す YS net の試み 池田 尚人 昭和大学 横浜市北部病院 脳神経外科

§5-2 一人医長の2次救急病院で、地域のために何ができるか、できないか。 それに影響を与えるものは何か。

村上 健一 北陸中央病院 脳神経外科

S5-3 中村記念病院における救急外来受診症例の重症度検討 大里 俊明 中村記念病院 脳卒中センター 脳神経外科

- S5-4 地方大学病院脳神経外科と周辺地域初期診療施設との連携 一救急医療における現状と問題点ー 棟方 聡 弘前大学 大学院医学研究科 脳神経外科
- S5-5 地方中核病院における救急体制の問題点合田 雄二 独立行政法人 労働者健康福祉機構 香川労災病院 脳神経外科
- S5-6 所沢市で救急搬送となった脳梗塞症例の現状 柳川 洋一 防衛医科大学校病院 救急部
- S5-7 大学医学部を中心とした画像転送システムによる地域医療支援 藤澤 博亮 山□大学医学部 脳神経外科
- **§5-8** 救命救急センターにおける地域連携。断らない救急医療を実践するために 小畑 仁司 大阪府三島救命救急センター

一般口演 12 10:40~11:50

脊椎・脊髄損傷

座長:阿部 俊昭 東京慈恵会医科大学 脳神経外科

水野 順一 総合南東北病院 脊椎脊髄疾患診断治療センター

- ○12-1 脳神経外科救急領域における高齢者脊椎・脊髄損傷 −三次救命センターでの現状ー 岩瀬 正顕 関西医科大学
- ○12-2 腰痛、完全対麻痺にて発症し緊急手術にて良好な結果を得た腰椎硬膜外血腫の1例
 池田 英敏 ツカザキ病院 脳神経外科
- ○12-3 脳神経外科救急で見落としがちな頸椎骨折病変:診断のコツと留意点 秋山 雅彦 富士市立中央病院 脳神経外科
- ○12-4 脱臼をともなった症候性中下位頚椎損傷に対する急性期治療とその問題点水野 順一 総合南東北病院 脊椎脊髄疾患診断治療センター
- O12-5 骨損傷のない頚髄損傷の治療経験平野 仁崇 総合南東北病院 脊椎脊髄疾患診断治療センター
- ○12-6 脊髄硬膜外血腫手術症例の検討 鈴木まりお 順天堂大学 脳神経外科
- ○12-7 急性期頚椎損傷に対する頸椎椎弓根スクリューを使用した後方固定術 下川 宣幸 ツカザキ病院 脳神経外科

一般口演 13 13:00~13:30

社会問題

座長: 伊藤 昌徳 順天堂大学 医学部付属 順天堂浦安病院 脳神経外科

○13-1 時間外受診頭部疾患民事判例の解析と対応策

宮澤 隆仁 防衛医科大学校 脳神経外科

013-2 臓器提供症例における法医学的検証

小野 元 聖マリアンナ医科大学 脳神経外科

013-3 妊娠に伴った頭蓋内病変の4症例

安栄 良悟 旭川医科大学 脳神経外科

シンポジウム6 13:30~14:40

Stroke Care Unit の有用性

座長: 富田 博樹 武蔵野赤十字病院 脳神経外科

S6-1 SCU を有する脳卒中センター開設後の脳卒中診療の現状と課題

京 睦也 武蔵野赤十字病院 脳神経外科

S6-2 脳神経外科診療における Stroke Care Unit 利用の実際

林 健太郎 長崎大学 医学部 脳神経外科

86-3 脳卒中診療における診療体制の確立

和田孝次郎 自衛隊中央病院 脳神経外科

S6-4 脳卒中ユニットにおける超急性期からの看護師による摂食嚥下機能療法の取り組み

新名由利子 杏林大学 医学部付属病院 脳卒中センター

S6-5 モバイル脳卒中センターを活用した急性期脳梗塞治療の試み

鈴木 聡 新日鐵八幡記念病院 脳卒中・神経センター

特別講演2 15:00~15:30

座長:島 克司 防衛医科大学校 脳神経外科

Epidemiologic Transition of Traumatic Brain Injury

演者: Wen-Ta Chiu 台北医科大学 副校長·台湾神経外傷学会 会長

頭蓋内圧研究会との合同シンポジウム7 15:40~17:40

頭蓋内圧モニタリングの有用性 座長: 有賀 徹 昭和大学 医学部 救急医学講座

高里 良男 国立病院機構災害医療センター 脳神経外科

§7-1 小児重症頭部外傷による頭蓋内圧亢進の長期予後と予後決定因子 − ICP モニタリングによる集学的治療の総括−

荒木 尚 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター

S7-2 蘇生後脳症の転帰と低体温療法中の頭蓋内圧は相関する

磯谷 栄二 東京医科歯科大学 医学部付属病院 救命救急センター

S7-3 重症頭部外傷に対する軽度低体温療法中の脳血流自動調節能の検討

宮城 知也 久留米大学 医学部 脳神経外科

特別講演

座長:清水 庸夫 医療法人啓清会 関東脳神経外科病院

医療制度改革と救急医療

利田 勝(わだ まさる) 国際医療福祉大学 教授

【プロフィール】

昭和20年5月31日生

本籍:東京都

学歴:東京大学法学部卒業

略歴:

昭和44年7月 厚生省入省

厚生省公害部庶務課、薬務局企業課、三重県福祉部児童老人課長、 厚生省保険局企画課長補佐·企画官、厚生省年金局企業年金課長、

厚生省社会局生活課長等を経て

平成1年6月 厚生省薬務局経済課長

平成3年7月 厚生省児童家庭局企画課長

平成4年4月 東京大学経済学部講師(非常勤。~平成6.3)

平成4年6月 厚生省保険局企画課長 平成5年6月 厚生省大臣官房総務課長

平成6年9月 厚生省大臣官房審議官(医療保険、老人保健、介護問題担当)

高齢者介護対策本部事務局長

平成8年12月 退官

現在:

国際医療福祉大学大学院 教授、順天堂大学 客員教授、健康保険組合連合会 参与 NPO あごら 副理事長

NPO 歯科医療情報推進機構 副理事長

NPO 地域ケア政策ネットワーク 理事

NPO よろず相談21世紀法人像研究会 理事

NPO 保健科学総合研究会 理事

社会福祉法人ケアネット 理事

富国生命保険相互会社 評議員

主な著書等:

医療・福祉・介護分野において執筆・監修・講演等を行っております。

• 本

『医薬産業論』(ぎょうせい)平成9年8月30日

『日本医療保険制度史』(東洋経済新報社·共著)平成11年12月30日

『介護保険の手引』(ぎょうせい)平成11年から毎年刊行

『介護保険事業運営の実務』(全国社会福祉協議会)平成12年12月20日

『ケアマネジャーになりたい人の本』(ダイヤモンド社・共著)平成12年5月18日

『実践ホームヘルパー養成講座』(編集)(全国社会福祉協議会)平成13年2月10日

『新版社会福祉学習双書12・医学一般』(全国社会福祉協議会・共著)平成18年2月 『介護保険制度の政策過程』(東洋経済新報社・編著)平成19年3月

雑誌など

「独・蘭・仏3カ国の医療保障改革」『健康保険』平成15年1月号-3月号

「生涯を通じた健康自己管理支援について」『健康管理』平成15年 第5号

「医療・介護・福祉の改革に対応する医療サプライヤーの課題」月刊『MEDICAL QOL』平成14年12月号 「介護保険制度見直しの課題|『健康保険』 平成15年8月号

「平成18年度の医療保険制度改革の展望 | 『社会保険推進連盟』 平成17年9月

「医療構造改革の今日的課題」第1回~第95回 現在連載中 月刊『MEDICAL QOL』など多数

座長:島 克司 防衛医科大学校 脳神経外科

Epidemiologic Transition of Traumatic Brain Injury

Wen-Ta Chiu 台北医科大学副校長·台湾神経外傷学会会長

Basic Information

Name: Wen-Ta Chiu

Sex: Male

Birth Date: July 21st, 1950

Address: No. 111, Section 3, Hsing-Long Rd, Taipei 116, Taiwan

Tel: +886-2-2933-5222
Fax: +886-2-2933-5221
E-mail: wtchiu@tmu.edu.tw

Present Position

- 1. President, Taipei Medical University, 2008-present
- 2. Superintendent, Taipei Medical University-Shuang Ho Hospital, 2008-present
- 3. President, Asia-Pacific Academic Consortium of Public Health, 2008-present
- 4. President, Academy for Multidisciplinary Neurotraumatology (AMN), 2007-present
- 5. President, Taiwan Neurotrauma Society, 2006-present
- 6. Researcher, Division of Health Policy research, National Health Research Institute, 2005

 —present
- 7. President, Nongovernmental Hospitals and Clinics Association, R.O.C, 2005-present
- 8. President, Taiwan College of Health Executives, 2000- present
- 9. Professor, College of Medicine and College of Public Health and Nutritional Science, Taipei Medical University, 1995-presnet

Appointments

- 1. Superintendent, Taipei Medical University-Wan Fang Hospital, 1997-2008
- 2. Executive President, 37th Conference of Asia-Pacific Academic Consortium of Public Health, Nov. 2005, Taipei
- 3. Congress President. 2^{nd} Conference of the International Society of Reconstructive Neurosurgery, Sep. 2007, Taipei
- Director, Institute of Injury Prevention and Control, Taipei Medical University, 2000– 2004
- 5. President, Taiwan Neurosurgical Society, 2001-2003
- 6. President, Taiwan Regional Hospital Association, 1999-2003
- 7. President, Injury Prevention Center, 1998-2001
- 8. Chief, Division of Neurosurgery, Department of Surgery, Taipei Medical University Hospital, 1989–97
- 9. Chief, Division of Neurosurgery, Wan Fang Hospital, 1997-2004
- 10. Director, Biomedical Informatics Center, Taipei Medical University, Taiwan, 1996
- 11. Executive Vice-Superintendent, Taipei Medical University Hospital, 1993-96
- 12. Dean, School of Public Health, Taipei Medical University, Taiwan, 1993-96
- 13. Associate Professor, Taipei Medical University, Taiwan, 1989-93
- 14. Attending Neurosurgeon, Taipei Medical University Hospital, Taiwan, 1983-89

Education:

- 1. Ph.D. School of Public Health, University of Pittsburgh, Pittsburgh, PA, U.S.A.1987-89
- 2. M.P.H. School of Public Health, University of Pittsburgh, PA, U.SA. 1986-87
- 3. D.M.Sc (Neuroscience) Nihon University School of Medicine, Tokyo, Japan. 1985-91
- 4. Research fellow. (Neurosurgery) Stanford, U.S.A. 1985-85
- 5. M.D. Chung-Shan Medical College, Taiwan, 1970-75

Honor & Membership:

- 1. Neurotraumatology Committee of the World Federation of Neurosurgical Societies Secretary and Committee Member.
- 2. Neurorehabilitation and Reconstructive Neurosurgery Committee (NRN), WFNS Committee member, 1999–present
- 3. Audit Committee, WFNS Committee member, 2003-present
- ICRAN1999 (International Conference on Recent Advances in Neurotraumatology, Taipei, Taiwan, 1999) – Congress President.
- 5. Academy of Surgical Research -Member and Editorial Board (Journal of Investigative Surgery)
- Asian and Oceanic Association of Neurology: Member and Executive Member of 6th AOCN - Member
- 7. Asian Australasian Society of Neurological Surgeons-Member
- 8. Asian Surgical Association-Member
- 9. Neurosurgical Society, Taiwan-Past President & Board of Directors
- 10. Neurological Society, Taiwan-Member
- 11. Formosan Medical Association-Member
- 12. Surgical Association, R.O.C- Life Member and Executive Board
- 13. China Medical Association- Member
- 14. Chinese Association of Medical Information Science, Taiwan-Standing Committee Director
- 15. Association of Sports Medicine, Taiwan-Member
- 16. Public Health Association, Taiwan-Member and Board of Directors
- 17. Taiwan Hospital Association-Board of Directors
- 18. Taipei Red Cross-Board of Directors
- 19. Injury Prevention Association- Past President & Standing Director
- 20. Association of Disaster Medicine- Honorary President

Honors and Awards

- 1. 17th Medical Contribution Award. 2007
- 2. APACPH Contribution Award, 2007
- 3. Li Guo Ding Management Medal, 2003
- 4. 13th National Quality Award, -Organization, 2002
- 5. 1st Award for Private Participation Infrastructure project, Executive Yuan, Taiwan, 2002
- 6. International College of Surgeons-Excellence Research Award, 2000, 2001.
- 7. 11th National Quality Award (Individual), October, 2000
- 8. National Research Award by National Science Council, 1998 (*Traumatic Brain Injury Registry in Taiwan*)
- 9. Award Social Educational Affairs by Ministry Department of Education, 1997
- 10. Prominent Research Paper Award by Huang's Foundation, January, 1997
- 11. Wang Ming-Ning Award, December, 1996
- 12. Prominent Research Paper Award by Huang's Foundation, April, 1993
- 13. Editorial Board, Journal of Investigative Surgery, October, 1992
- 14. Fellow of International College of Surgery (FICS) at Chicago, 1988
- Member of Omega Delta Society: Doctoral Graduate Association of University of Pittsburgh, 1989
- 16. Medical Award of the Taiwan Medical Association, November, 1984

Specialty

Neurotrauma, Neurosurgery, Injury Prevention, Hospital Management, Epidemiology

抄 録

第 1 日目 平成 21 年 1 月 16 日 A 会場

S1-1

大地震における脳神経外科医のあり方

- 1) 防衛医科大学校病院 救急部、
- 2) 国立病院 機構災害医療センター、
- 3) 陸上自衛隊即応集団
- ○柳川 洋一1)、本間 正人2)、有本 裕彦3)

【目的】大地震における脳神経外科医のあり方を検討すること。

【方法】大地震の際の脳神経外科医の現状を把握するために、医中誌(1983-2008年)並びにPubMed (1974-2008)を用い、地震(earthquake)、頭部外傷(head injury)の二つの検索単語を用い、文献収集を行い、分析した。

【結果】頭部外傷の記載があったのは3件であった。また、実際の治療に関する記載があったのはパキスタン大地震の際に自己完結型の軍病院による報告例のみであった。地震による死因に関する記載は台湾大地震とノースリッジ地震に関する2報告で存在したが、両報告とも倒壊建物による頭部外傷が主因としていた。以上の結果より、大地震では多数の頭部外傷が治療を受けずに死亡していることが推察された。

【結語】大地震で脳神経外科医が手術で重症頭部外傷患者を救うためには、災害現場での負傷者発見、救出、トリアージ、手術できる病院までの搬送手段の一連のシステムの確立が必要である。これは一脳神経外科医には不可能であり、消防・Disaster Medical Assistance Team 連合や自衛隊の能力が不可欠となる。従って、大地震の際のこれらの組織の役割や能力を理解し、協調した行動をとることが脳神経外科医のあり方と考えられた。

S1-2

脳神経外科医が災害時にできること、 災害に対して準備すること

- 1) 兵庫県災害医療センター / 神戸赤十字病院 脳神経外科、
- 2) 兵庫県災害医療センター 救急部、
- 3) 神戸大学大学院 医学系研究科 脳神経外科
- ○山下 晴央¹、原 淑恵¹、森下 暁二¹、
 千葉 義幸¹、松下 誠¹、中山 伸一²、
 甲村 英二³)

災害医療は災害の発生場所、程度、種類などに影響され、適切な迅速対応が困難なことが多い。阪神 淡路大震災を契機に設立された当センターとして、 大震災以後の経験を振り返り、災害医療における脳神経外科としての救急対応を考察する。

【方法】兵庫県における阪神淡路大震災(1995年1月)、台風23号但馬地方洪水(2004年10月)、JR福知山線脱線事故(2005年4月)の大災害・事故に注目し、当施設の脳神経外科医が経験した被災時の状況、センター救急部の対応を調査して、脳神経外科医としてできたこと、救急部が脳神経外科に期待したことをまとめ、今後の対応を検討した。

【結果】大震災被災者2名は、避難、被災地病院の機能低下や軽症患者の処置を経験し、勤務した被災地周辺病院では、入院が必要な脳神経外科疾患は少なかった。但馬地方洪水では、1名が病院冠水後から勤務し、復旧状況、開業医の援助を経験した。JR福知山線事故では、現場医療活動を行った救急部の援助態勢となったが、脳神経外科疾患は事故近隣施設での加療が中心であった。救急部は脳神経外科に病院の全体的機能を維持する後方支援を期待していた。

【考察】災害医療においては、脳神経外科医は脳神経外科に偏らない救急対応が求められることが多い。 被災地では、初期診断や治療に、ICLS、トリアー ジなどの知識、理解が必要で、周辺では、救急部、 DMAT などと連携し、広域搬送を考慮した後方支 援が必要と考えられた。

自衛隊と災害・救急医療

- 1) 防衛医科大学校 防衛医学研究センター外傷研究部門、
- 2) 防衛医科大学校病院 救急部
- ○齋藤 大蔵1)、柳川 洋一2)

【目的】阪神・淡路大震災以降に発展してきた本邦 の災害対応システムを紹介し、その中で自衛隊が担 う役割と発展性について考察する。

【方法・結果・考察】1995年1月17日に発災した阪 神・淡路大震災以降、災害時のおける preventable death を減らすことを目標に、災害拠点病院の充実 化と広域搬送システムの構築が図られ、本邦の災害 対応体制は発展しつつある。災害拠点病院には Disaster Medical Assistance Team (DMAT) が整 備され、災害に対する多種多様な任務と役割が賦与 された。一方、広域搬送システムには防衛省・自衛 隊の機動力・輸送力が組み込まれ、東京 DMAT に おける広域搬送拠点(staging care unit:SCU)は 航空自衛隊の入間基地がその任務を担うものと想定 されている。災害時における対応として、地方自治 体・厚生労働省と防衛省・自衛隊のコラボレーショ ンは国民の安全と安心に大いに寄与するシステム構 築と考える。自衛隊は、偵察活動、捜索・救助、物 資輸送、患者空輸、通信確保、応急医療、特殊災害 対応、入浴支援、給水・給食支援、空中消火、ある いは復旧活動などの多岐にわたる災害派遣活動がで き、2006年内閣府が行った世論調査で自衛隊の災 害派遣活動は高い評価を受けている。

【結語】関係諸機関との協調・共同作業の中で、自 衛隊の潜在能力と救急救護医療の発展性に期待する。

S1-4

災害時における救急医と脳神経外科医との コラボレーションを求めて

大阪府立急性期・総合医療センター 救急診療科

○池内 尚司

災害の大小を問わず、多数の負傷者が発生した場合、災害現場から遠隔地の災害拠点病院にいたる医療施設のラインが整備されつつある。即ち、現場では救急隊や警察と協力して、災害医療の訓練を受けた DMAT(主に救急医)による sieve と sort によるトリアージが行われ、応急救護所では緊急処置や救命処置が施される。本格的な治療を行うべく、災害拠点病院へ救急車両やヘリコプターにより搬送され、hospital incident system を立ち上げた拠点病院では病院機能の集約化と人員配により対応する。

広域災害の場合は、Staging Care Unit (SCU)を 設立し、全国から医療スタッフが参集し、全国へ患 者を転送する。阪神大震災後10数年を経てやっと 医療従事者に「システム」として認識される段階 になった。しかし、このシステムは単純な救命処置 が必要な症例と、crush syndrome やある程度の出 血など根本的な治療まで間、大量輸液等により時間 稼ぎが可能な症例に対しては有効であるが、緊急開 頭術を必要とする重症頭部外傷例には恩恵が少ない ことは、JR福知山線脱線事故における頭部手術数 を引き合いに出すまでもない。まして、遠隔地搬送 を前提とした SCU では、意識障害例に瞳孔不同が 出現した段階で、搬送優先順位が下がる。救急医は、 頭蓋内病変を診断したうえで治療計画を立てること を常としており。災害時でも同様である。脳外科医 には field で頭蓋内病変を簡易に診断しうる搬送型 CT と、極めて短時間に開頭可能な病院システムを 作成して頂きたい。

第 14 回日本脳神経外科救急学会

後援:日本脳神経財団

会 長:島 克司

事務局:防衛医科大学校 脳神経外科

埼玉県所沢市並木 3-2

TEL:04-2995-1656 E-mail:neuro@ndmc.ac.jp

印 刷: **Secand** 株式会社セカンド

〒 862-0950 熊本市水前寺 4-39-11 ヤマウチビル 1F TEL:096-382-7793 FAX:096-386-2025